

テーマ

主体的に考える児童を育てる命を守る訓練の取組について

鹿児島県いちき串木野市立羽島小学校

I 学校の概要（立地状況等含む）

本校は、海岸から約 100mに位置し、標高約 15mの場所にある。児童の自宅や行動範囲のほとんどは、海岸から約 400m以内の海沿いである。また、九州電力川内原子力発電所から約 8.6kmのUPZ圏内に位置している。本校では毎年5回の命を守る訓練（火災、地震・津波、不審者対応、小中合同引き渡し、集団下校）を実施している。



【高台への避難の様子】

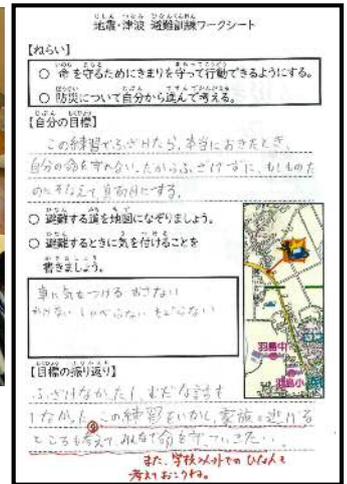
II 命を守る訓練（地震・津波）取組の概要

1 本校の実態と対応策

本校では、全国各地で起きた震災の度に訓練方法を見直してきたが、これまで想定外の災害が起こることがたびたび見られた。また、児童の意識が十分に高まっていない実態もあった。そこで、これまで以上に実効性のある訓練方法の見直しに加え、児童が、より主体的に自分の命を守るように考えられる工夫を行ってきた。



【事前の記入】



2 取組の内容、方法、工夫等

(1) 避難場所の見直し

東日本大震災などの状況から、より安全な避難場所を検討する必要があった。そこで学校から約 500m離れた標高約 40mの公民館に避難場所を変更した。

(2) 命を守るノート(Life Guard Note)

児童が主体的に考えられるように、命を守るノートを作成し、次のような内容について主体的に考えさせる事前・事後指導を徹底した。

ア 地震・津波の知識・理解

地震・津波のメカニズムや引き起こされる災害を調べたり考えたりする。これまでに起きた地震や津波の被害について、映像などで知る。

イ 身近な危険への意識化

学校や自宅、遊び場など身近な場所で考えられる地震や津波が起こった際に想定できる危険について話し合ったり確認し合ったりする。

ウ 危険を避ける行動の確認

確実に危険を避けることができる行動や避難場所について話し合い、具体的な行動方法を考えたり地図に書き込んだりする。



【事後の話合い】



4 取組の成果と課題

(1) 成果

ア 避難場所を見直すことで、十分に安全を確保できる場所になった。

イ 命を守るノートを作成・活用したことで、考えを共有したり自分のこととして考える姿が見られたりして、児童一人一人の意識が高まった。

(2) 課題

ア 「かごしまの教育」県民週間に行うことで、保護者や地域の方々への啓発もねらいとしていたが、見学者はわずかだった。家庭・地域一体となった避難訓練を目指したい。

イ 避難訓練前後には、児童の意識は高まるが、日が経つと少しずつ薄れていく。災害はいつ起こるかわからないことも理解させながら、年間を通して意識を高められるように工夫したい。

3 地震・津波避難訓練の状況

(1) 開催日 令和3年11月1日

(「かごしまの教育」県民週間期間)

(2) 参加者 児童 52名 職員 13名